

医動物・種類同定検査結果(令和2年4月～9月)


医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和2年4月から9月の6ヶ月間の種類同定検査報告件数は5件で内訳は、昆虫類3件(コウチュウ目1件、ハチ目1件、ハエ目1件)、その他の節足動物2件(ザトウムシ目1件、クモ目1件)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

同定結果	写真 (状態、体色、大きさ)	相談内容・ 発生状況等 (相談月)	生態・その他
ムナビロヒメマキ ムシ (コウチュウ目)		マットレスを保管している部屋のフローリング上と隣室の畳に小さな虫が多数みられる。(9月)	成虫、幼虫ともカビを食べる。製薬工場や食品工場等の倉庫内のパレットやカビの生えた壁などにみられる。畳に発生することもあり、家屋害虫としては本科の中では最も普通にみられる種である。
成虫、赤褐色、1.2mm			
ニホンミツバチ (ハチ目)		空き家のトイレ下部の外壁隙間から多数の虫が出入りしている。(9月)	巣は数年単位で維持され、分封によりコロニーは増える。分封は4～5月にみられる。営巣場所は樹洞、岩の間、墓石の中、天井裏、軒下、木の幹、床下など広範囲にわたる。
成虫、黒色、12mm			
ホシチョウバエ (ハエ目)		給食の配膳室の床上に1～2mmの虫の死骸が大量にみられた。(8月)	浄化槽、汚泥の溜まった下水溝など有機物の多い水域に広く発生する。幼虫は日中も活動するが、深夜に最も活発に活動する。成虫も夜間に活発に活動する。
成虫、灰白色、1.3mm			
ゴホントゲザトウムシ (ザトウムシ目)		自宅の庭でクモのような虫を捕獲した。(6月)	ザトウムシ目は主に落葉、落枝中や倒木下、樹幹、草本上などに生息する。林床や地表でみつかるともある。食性は広く、昆虫やミズ、陸貝などを捕食するほか、植物質を食べることもある。
成虫、黒色、10mm			

同定結果	写真 (状態、体色、大きさ)	相談内容・ 発生状況等 (相談月)	生態・その他
セアカゴケグモ (クモ目)	 <p data-bbox="400 577 740 651">雌成虫、黒色、背面及び腹面に赤い斑紋あり、10mm</p>  <p data-bbox="539 896 603 929">卵囊</p>	横浜港シンボルタワー敷地内でクモ及び卵囊を採取した。 (9月)	体色は黒く、背面中央部に赤い縦長の斑紋、腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。 攻撃性はないが、直接手で触れると咬まれることがあるので注意が必要である。咬まれると激しい痛みを感じた後に腫れ、まれに全身症状(痛み、発汗、発熱など)が現れることがある。重症化することは少ない。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】